

## いわき農林事務所ニュース 2006年4月号

### 活動状況

#### ○「こだわり山の幸」料理体験教室を開催しました！

3月2日、「こだわり山の幸」料理体験教室を、いわき市立久之浜(ひさのはま)第二小学校の5・6年生16名を対象に開催しました。

「こだわり山の幸」料理体験教室は、地元で生産されたしいたけを使って料理体験を行うことで、地元の子供たちに地域の山の幸や食について知ってもらい、身近な農林生産物について理解を深めることを目的に、乾しいたけにこだわりを持って生産している新妻衛さんの協力を得て開催しました。

はじめに、新妻衛さんから太い木を使ってしいたけを作っていることや、しいたけに何万枚も袋をかけることなど、しいたけの特徴や栽培方法等についての話を聞いて、児童たちは驚いている様子でした。その後、新妻さんが作ったしいたけを使い、奥様のハツ子さんや地元の方々の方々の指導を受けながら、「しいたけのフライ」や「しいたけのチーズ焼き」、「とん汁(じる)」を作りました。

調理後、できあがった料理を参加者全員で試食しました。普段はしいたけをあまり食べない児童も、いつも食べているしいたけと歯ごたえやおいしさが違うなどと楽しそうに話しながら、しいたけ料理を味わっていました。



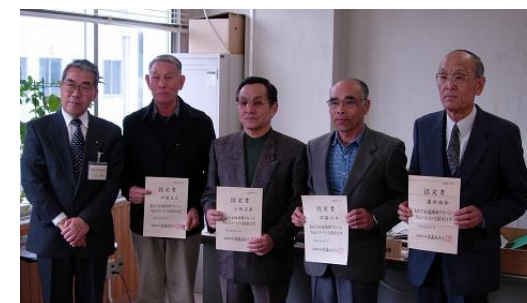
シイタケについて話をする新妻衛さん

#### ○福島県グリーンフォレスターが認定されました

3月14日、平成17年度福島県グリーンフォレスター認定書交付式がいわき農林事務所において行われました。今年度は県内で26名、当管内からは伊藤貞夫さん、小林正美さん、佐藤行年さん、菌部禎節さんの4名が認定され、小山農林事務所長から認定書が交付されました。

「福島県グリーンフォレスター」は、県民参加による森林づくり運動の促進を図るため、森林整備活動や森林環境教育をとおして、林業の重要性や技術などを広く県民に伝えるボランティアによる指導者で、森林・林業の現状や森林整備作業の安全対策等に関するカリキュラムを修了のうえ、レポートによる審査を受けて認定されます。

今年度認定された4人は、これまでも森林ボランティア活動などで活躍されている方々ばかりで、指導者としての活動がすでに予定されていることなど今後の意気込みを話していました。森林づくり活動の指導者としてますます活躍が期待されます。



小山所長(左)と認定されたグリーンフォレスター

## ○平成17年度のエコファーマー認定者が2.8倍に増加！

3月10日、県いわき合同庁舎でエコファーマー認定証交付式が開かれ、57名の方々が新たにエコファーマーに認定されました。

これにより、平成17年度末現在のエコファーマーは208名（作物別累計で239件）、面積は276haになりました。作物別では、これまでに15種類が認定され、水稲がもっとも多い117件、イチゴが55件、トマトが24件の順となっています。

平成13年度に8名15件18haが初めて認定されて以来、いわき地方のエコファーマーは、これまで個人単位の取り組みが主流で、平成16年度末には、74名（作物別累計88件）面積73haでした。

しかし、この1年間、積極的に団体単位での取り組みを推進したことから、エコファーマーが急増し、人数で2.8倍となりました。特に水稲部門は、JAいわき市、JAいわき中部による数十人まとまったの申請が行われ、エコファーマーが急増しました。今後両JAでは、稲作部会の設立を予定しており、部会単位での多数の申請が行われるものと思われます。

また、今年度にJAいわき市イチゴ部会では、イチゴ部会としては県内ではじめて土耕栽培の全員55名がエコファーマーとなりました。

今後は、ナシ、ネギ、とっくりいも、イチジク等の当地方の特産品でもJA部会や生産組織等の団体単位での申請が計画されています。

より安全で安心な農産物を消費者に提供するため、エコファーマーがいわき地方の農業の主流となり、自然環境に配慮した農業の更なる推進が期待されます。



講演する新妻ゆき子さん

## ○いわき地方資源循環型農業推進本部会議を開催しました！

3月17日、いわき地方資源循環型農業推進本部会議が、県いわき合同庁舎で開催され、市、JA等の関係者16名が出席しました。

まず会議に先立ち、地元いわき市の廃棄物中間処理業者である「トラスト企画株式会社」の川崎朝光さんから「廃食用油再利用の取組み」と題した講演が行われ、約40名が聴講しました。トラスト企画は、食用油の効果的・効率的な精製技術を開発し、食品販売業者、市民等より回収した廃食用油からRVO（再生植物燃料）を始め、液体洗剤、切削油といったリサイクル製品を製造しています。RVOは軽油代替燃料として使用することができ、二酸化炭素の発生量が軽油より約11%少ない等環境にやさしい燃料です。また、スーパーや市民団体等と協力し、いわき食用油リサイクルネットワークを形成し、スーパー等に回収箱を設置し廃食用油の回収拡大にも取り組んでいます。

会議では、今年度の資源循環型農業推進会議の活動実績の報告、計画の検討等が行われました。また、三和地区健康野菜の取組みやペレットストーブの導入についての紹介もありました。

参加者は、今回の講演会や会議をとおりて農業だけではなく様々な分野と連携し、資源を有効活用した、「環

境にやさしい循環型農業」を推進していくことの必要性等について理解を深めていました。



講演するトラスト企画（株）川崎朝光さん

## ○農業試験場いわき支場が閉場

3月28日、農業試験場いわき支場において同場の閉場式が行われました。

当日は、いわき市やいわき市農業協同組合など、関係機関・団体の来賓に加え、生産者の代表、初代の支場長にも出席いただき、職員や農場管理委託先の六十枚園芸組合員と共にいわき支場との別れを惜しまました。

式では、農林水産部長代理の榎本経営支援領域総括参事、松川農業試験場長のあいさつの後、来賓として、いわき市長代理の村田助役、いわき市農業協同組合長代理木田専務からごあいさつをいただきました。

また、佐藤支場長から当支場の経過が報告された後、表札降納を行い、大正12年に県立農事試験場石城分場として設立されてからの、82年間の歴史に幕を下ろしました。

4月からは、農業試験場いわき支場が行ってきた野菜・花きの試験研究業務は、新たに開設される福島県農業総合センターに引き継がれ、更なる発展が期待されます。



表札を外す松川農業試験場長と小山所長

## トピックス

## ○木質ペレット製造プラント竣工記念見学会が開催されました

県内で初めて木質ペレットを製造することとなる遠野興産株式会社の木質ペレット製造プラント竣工記念見学会が、関係者等約50人の出席のもと、3月4日にいわき市遠野町において行われました。

見学会に先立ち開催された竣工記念式典では遠野興産株式会社中野代表取締役、協同組合いわき材加工センター鈴木理事長がそれぞれあいさつを述べた後、来賓の佐藤いわき地方振興局長が祝辞を述べ、その席上で木質ペレットの名称「いわき産ペレット温丸（ぬくまる）」の名付け親である、いわき市内の植田さんにペレットストーブの目録が送られました。式典の後、出席者は木質ペレット製造プラントを見学し、初めて見るペレットの製造工程に、感心している様子でした。

木質ペレットの原料は、再生可能な木質バイオマスであるため、地球温暖化の防止に貢献するとともに、これまで利用されなかった傷や曲がりのある間伐材などが原料として利用できるため、いわき市の森林整備の促進、林業の活性化にもつながるものと期待されています。遠野興産株式会社では、木質ペレットの原料には純粋な木材や樹皮を主として使用するため、林地に残されている材も今後積極的に利用していく方針です。

遠野興産株式会社の木質ペレット製造プラントでは、需要に応じて年間1,000トンの木質ペレットの生産が可能で、製造された木質ペレットは、協同組合いわき材加工センターが、いわき市内はもとより広く県内外へ販売することとなっております。

ペレット販売の問い合わせ先  
協同組合いわき材加工センター  
電話0246-74-1288

◀ もどる

すすむ ▶

[ [▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#) ]



竣工した木質ペレット製造プラント